

高速増殖原型炉もんじゅ 性能試験(炉心確認試験)
実施状況

13:30現在

概要
流量係数評価、放出放射性物質挙動評価を安全に実施している。

プラント状態
異常なし。
1次主冷却系流量 約49%(主モータ運転) 1次主冷却系温度 約200℃
2次主冷却系流量 約 7%(ポニーモータ運転) 2次主冷却系温度 約200℃

備考

性能試験実施状況

【昨日(6/3)の実績】

9:06 反応度停止余裕測定試験開始 10:42 終了
9:10 ナトリウム純度確認開始 14:10 終了
放出放射性物質挙動評価開始 15:30 終了
19:10 流量係数評価開始 20:51 終了
20:16 1次主循環ポンプ主モータ起動
原子炉容器カバーガス高圧モード移行開始 6/3 1:31 終了

【本日の実施状況】

9:25 放出放射性物質挙動評価開始
9:28 流量係数評価開始
9:35 新型ナトリウム温度計特性評価開始 11:57 終了
10:30 原子炉モードスイッチ「停止」→「起動」
11:00 制御棒引抜開始
原子炉臨界予定(16時頃)、1次主冷却系流量増加・減少操作(約49%→100%→約49%)開始予定(16時頃)、圧力損失変化評価開始予定(17時頃)、1次主冷却系温度下降操作(約200℃→約190℃)開始予定(22時頃)

【明日(6/5)の予定】

温度係数評価を実施する。(1次系の温度の変化が炉心特性に与える影響を評価する)
新型ナトリウム温度計特性評価を実施する。(超音波温度計の特性を確認する)
崩壊熱評価を実施する。(1次系の温度の変化より冷却系の熱容量を評価する)

備考

その他
・「B 1次補助系予熱制御盤故障」警報の発報について(別添資料)

備考

炉心確認試験工程

		3日(木)	4日(金)	5日(土)	6日(日)	7日(月)	8日(火)	9日(水)	10日(木)	11日(金)	12日(土)
性能試験工程	プラント操作を伴う試験	⑤反応度停止余裕測定試験									
		⑥流量係数評価									
		⑦温度係数評価									
		⑫ナトリウム純度確認									
		⑮放出放射性物質挙動評価									
	プラント操作を伴わない試験	⑯新型ナトリウム温度計特性評価									
		⑰圧力損失変化評価									
		⑳崩壊熱評価									
		△ 制御棒引抜									



平成 22 年 6 月 4 日

このお知らせは、国への報告対象トラブルではありませんが、炉心確認試験中に発生したものであり、参考までにお知らせするものです。

高速増殖原型炉もんじゅ
「B 1次補助系予熱制御盤故障」警報の発報について
(お知らせ)

1. 発生日時 : 平成 22 年 6 月 4 日 (金) 13 時 27 分頃
2. 発生場所 : 高速増殖炉研究開発センター
高速増殖原型炉もんじゅ 原子炉建物 (管理区域)

3. 状 況 :

高速増殖原型炉もんじゅ (定格出力 28.0 万 kW) は、炉心確認試験中のところ、13 時 27 分頃、「B 1次補助系予熱制御盤故障」の警報が発報したため現場を確認したところ、1次アルゴンガス系に設置されている原子炉容器ベーパーラップ (A) の「予熱温度高」を示す警報でした。

現在、1次主循環ポンプを主モータで運転していることから、1次アルゴンガス系は高圧モードで、ベーパーラップは予熱制御しています。

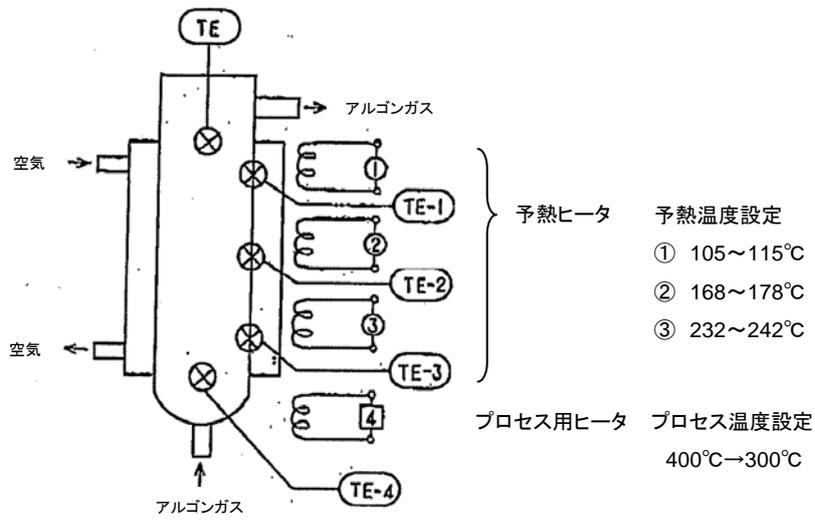
本日、流量係数評価のために1次主循環ポンプによるナトリウムの循環流量を増加させるため、炉容器カバーガスの圧力設定を定格の状態 (約 40→約 55kPa) にしたことから、アルゴンガスの循環流量が一時的に増加し、警報 (設定値 ; 262℃) が発報したものと推定されます。

ベーパーラップの温度を低下させるため、ベーパーラップのプロセス用ヒータの設定を 400℃から 300℃に変更しました。

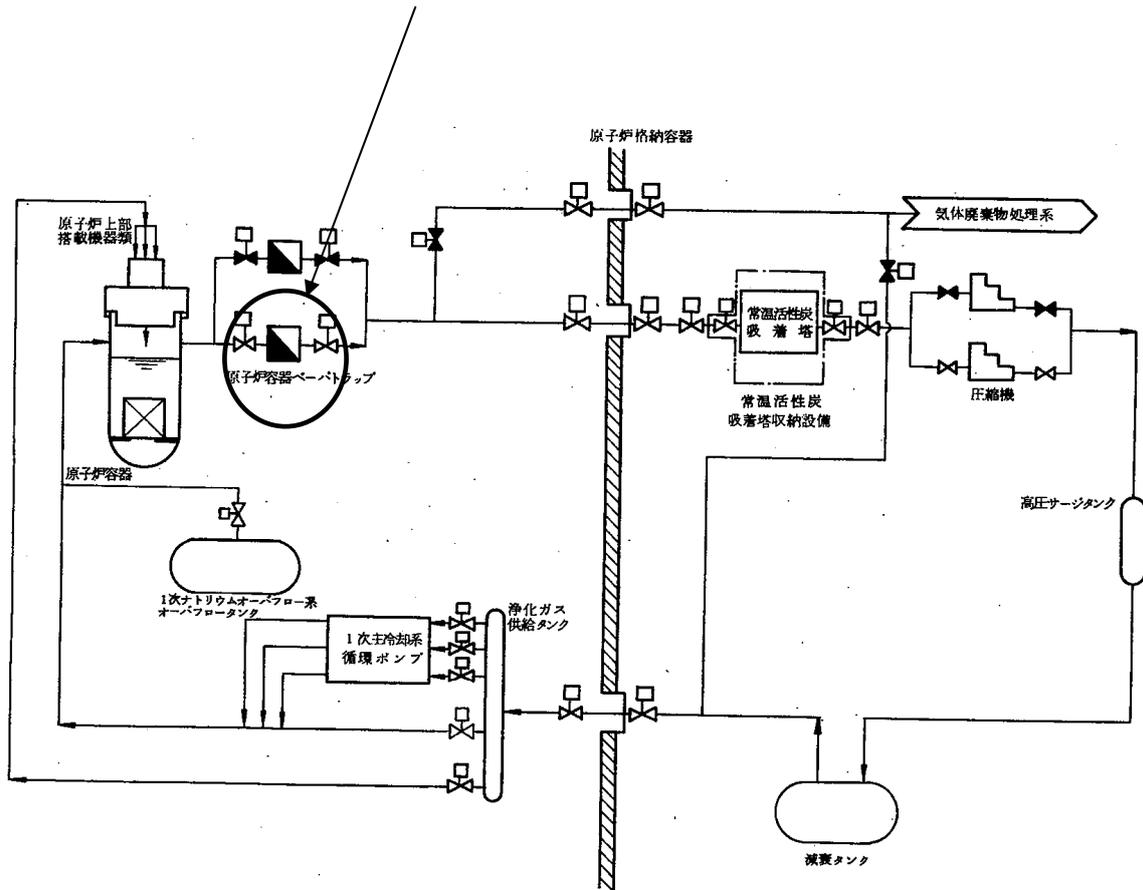
なお、環境及び炉心確認試験への影響はありません。

添付図 : 1次アルゴンガス系設備概要図

以 上



ベーパトラップ(A)



1次アルゴンガス系設備概要図